

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 4 月 30 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700096		
法人名	株式会社ディア・レスト福山		
事業所名	グループホーム松花園		
所在地	広島県府中市上下町上下851番1		
	電話番号	0847-62-8322	
自己評価作成日	令和 3年 12月 20日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 5 月 13 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 4 年 4 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

職員一同が企業理念である「ひとにやさしい介護を目指して」の実現に向けて取り組みながら、入居者様の安全、そして、安心して生活していただけるようにスタッフ皆で一致団結して頑張っています。また、医療機関との連携により、入居者様がいつまでも健康で、その人らしく、穏やかに、笑顔で過ごしていただけるように努めています。入居者様も気軽に園庭散歩や、園外の散歩・ドライブ・買い物など気分転換ができる施設です。ご家族様にも入居者様の日頃の生活が見えるよう、広報誌・写真・手紙などを請求書などと一緒に送らせていただき、安心していただけるように努めております。また、今年度より、インドネシアから技能実習生2名も仲間に加わり、スタッフも充実し入居者様への寄り添う介護に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

上下町の中心地に位置し、駅が近くにある。商店街や医療機関も近隣にあり、とても便利な場所である。向かいの町並みは上下保存地域であり、雛祭り等で有名な町である。当事業所は敷地が広くお庭には季節の花や木々の変化で季節が感じられる。素敵な環境である。また、散歩も危険なく出来ると共にお庭で色んな行事ができ楽しまれている。ケア面に於いては、理念にある「人に優しい介護を目指して」という事を全職員が共有し、利用者一人ひとりに優しく、安心、安全に過ごせる支援を日々実践されていると共に残存能力の維持にも努めている。コロナ禍ではあるが人込みを避け感染予防を徹底し、お雛祭りやかかし祭り、とんど祭り等に出かけ、五感刺激と楽しみごとの支援をしている。医療に関しては主治医との連携が構築され、緊急時や夜間等も対応できる体制が整っていると共に看護師の職員が4名いる為、日々の健康管理もされ、安心である。また、地域との交流も上下町自体が認知症に優しい町、とうたわれ、認知症イベント等も開催され、行政、医療機関、地域包括等の連携が築かれ、町民の理解も得られ、グループホーム松花園を街全体で支えてもらい地域貢献に努めると共に地域資源の活用にも繋げている。今では地域に根づき、地域と共に歩まれている。グループホームの本来の意義が築かれている事業所となっている。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナの影響にて、地域密着のイベント、地域の人たちとのふれあい等、なくなっていました。閉鎖的な空間ですが、スタッフ力を合わせて少しでも楽しく・安全に生活を続けて頂ける用にコロナが収まっているときなどには施設内でのイベントを行うようにしています。	理念は事務所に掲示し、「人に優しい介護、利用者一人ひとりに合わせた介護」という理念を目指し、全職員が共有し、実践に繋げていると共に健康で残存能力の維持、認知症状の改善を目指し、心をこめた介護を提供する様取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街への散歩やボランティアの来園等も行えない状況です。スタッフも、できるだけ人との接触をしないように指導している状況です。面会も禁止。あるいは制限付きの面会(家族のみ等...)臨機応変に対応しています。。	コロナ禍の為、地域の行事も中止となり、以前の様な交流はできていない。民生委員の方が協力的で連携が取れている。また、ええじゃ上下の広報誌作りに参加し、地域の一員として交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込み、家族の事での電話での相談時には認知症の家族様との接し方などのアドバイスをするようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は運営推進会議も中止しています。ディア・レスト福山は、コロナに対し厳しい対応をしているので、松花園内での会議も行っておりません。運営推進会議のレジュメは会議メンバー様へ2か月ごとに郵送しています。	運営推進会議は出来ていない。2ヶ月毎に議事録を作成し、取り組みや現状等を書面にて会議の委員の方へ送付し、その中で意見を聞くように努め、出された意見等はサービスに活かしている。書面を送付すると民生委員や町内会長から電話を頂き、情報や意見等もえられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議・地元の施設・病院・市の担当者の集まる会議にも参加し意見交換をしています。府中市介護保険課にもよく相談事を話に行きます。	疑問点や相談事項があれば、気軽に相談できる。実情や取り組み等は事あるごとに伝え協力関係は築かれている。地域のケア会議(市の担当者、社協、病院等の方等)に参加し意見交換などもしている。上下町は横のつながりがしっかりしている事と認知症に優しい町とうたわれ認知症イベントもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	松花園では身体拘束は禁止しています。朝礼でそのような話が出た場合には、拘束は行わない、違う方法を考えるようにしています。「これをこうすると拘束になる」と、その場で伝えている。	基本身体拘束はしない方針である。リスクに対しては、細やかに状況を見ながら、色んな工夫をし、職員間で密に連携を取り、見守りを徹底し、抑圧しない支援に努めている。玄関の施錠を含め拘束はしていない。朝礼時に時折、具体的な行為について正しく理解する様周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法等、難しいことはしていません。わかりやすく簡単な言葉で虐待が起こらないための仕事場での人間関係を含めた心・考え方の共有をしています。できるだけ現場に人員を確保することが大切だと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、そのような方がおられ学ぶ機会もありました。現在は、そのような勉強会をすることはありません。対象者がおられる場合には、管理者、ケアマネで対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入退居についての説明をしています。また、契約時に疑問点をお伺いし、その場で思いつかない時などはいつでも連絡していただくように声を掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望のある入居者様からの要望はスタッフに伝えてくれています。家族様は、面会時にお伺いすることができていると思います。家族様から外部へは、契約書に市町村・施設窓口についての説明はしています。要望があった場合には、申し送りノートでの共有をしています。	コロナ禍の状況で家族の訪問も制限され、お会いしての意見等は聞く事はできないが、毎月お手紙で日々の状況と個々の写真を送付し、その中で意見や思い等の把握に努めている。また、ラインや電話等で報告する際にも聞くように努め、色んな場での意見等は反映させると共に申し送りで共有し個々に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できるかぎり、スタッフ中心を心掛けており、現場でのことや入居者様への対応などはスタッフたちで決め、報告をしてもらっています。入居者様の負担が減るような介護・手伝いを心掛けて業務の変更など考えてくれています。	日々気付きがあればその都度聞いている。メモを事務所の机の上に置いている事もある。職員の意見は大事にされ、検討し必要に応じ、職員にヒートバックすると共に運営にも反映させている。メンタル面は気になる時は話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社内の昇給制度があり、資格手当なども上がる仕組みがあります。年齢給などもあり、年齢を重ねるごとに毎年昇給しています。パートの方の勤務日数なども家族構成の変化に合わせて対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦のため、地域内での研修もなくなりました。以前は、北市民や、他施設、本社の研修があり、希望者は参加可能でした。今はその都度OJTで教育しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネの交流の機会があります。スタッフ間の交流はしていません。リモートでの交流(看護師)は数回行われました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、前施設からの情報をもとに、スタッフ間での情報の共有をしています。現場サイドでも、常に新しい情報を共有し、入居者様が安心して生活していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様ができる限り家での生活に近い状態で生活できるようにご家族様の不安点や、入居者様の要望、家族様の施設で生活するにあたっての要望を聞き取りできるだけ対応しています。可能な限り、必要なものがあればすぐに対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人様の希望をできるだけ聞き出し、スタッフ間で共有し施設でのサービスに取り入れています。他のサービス利用は、福祉用具をご家族様と相談リリース又は購入していただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしていると言う概念は捨て、皆が同じ場所で生活をしている家族だと思いながら接することを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会の制限などもある中、自由に電話や、ライン電話ができる環境にあります。面会できる期間でも、他施設とは違い家族様の時間の都合に合わせた面会もできていると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在もコロナ渦で旅行や、買い物、馴染みの美容院、地域のイベント見学も中止しています。ですが、できるだけ外に出るようにしています。紅葉散策や、入居者様の家の庭で果実の採取等を行っています。外部との接触を避けながら馴染みの場所に行くようにしています。	家族の訪問制限があるが感染予防を徹底し家族と会ってもらったり、テレビ電話でお話してもらう等、できるだけ家族との絆が途切れない支援に努めている。また、ドライブで自宅近くまで行かれたり、受診の際、馴染みの人と出会う事もある。又、近隣の利用者が多く、利用者同士が馴染みの人である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者様が入居される時にはよく変更することがあります。男性や女性、気の合うあわない等を考慮し、テーブルの位置を決めています。人間関係が円満にいくよう、テーブルも増やしています。また、新しい入居者様を個々に紹介しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時はお亡くなりになった時なので、県外の方との交流はなくなりますが、地元の方などは、病院などで会った時などにも、空室状況を聞かれたり、入居の申し込みもされる家族様もおられます。付き合いは続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるかぎり本人の希望に沿うように努力しています。生活の場で必要なものは、家族対応ではなく、施設ですぐに対応しています。高額な場合には、家族の許可を頂き対応しています。また、スタッフ側ではなくご本人の立場に立って考えるようにしています。	日々の会話やレクリエーションの中、また、利用者同士の会話等で把握する事がある。食べ物の希望が出る。個々の思いに対しては出来るだけ思いに沿うように努めている。お誕生日には食べたい物を聞き対応している。表出困難な方には選択史を出しその時の表情から把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コロナ禍で対応が変わりました。現在は面会も家族のみの対応にしています。外部との接触は禁止となっています。手紙や電話での対応は今まで通り行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関りの中で、日々の体調の変化など、申し送りで共有できている。日常生活の中での役割を作り手先の仕事など手伝ってもらっています。ADLの低下を防ぐように気を付けていますが、コロナ禍で行事の縮小や面会制限等の影響で認知機能の低下につながった方もおられます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様、本人様の希望また、毎日関わりを持っているスタッフからの情報をもとに、介護計画を作成しています。	家族、本人の希望、主治医の所見、日々の業務日誌からニーズや課題について職員の意見を基に検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成し、家族の承諾も得ている。モニタリングや見直しは半年としているが状況変化した場合はその都度見直し、している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づきの記録ができています。日々気付いたことなども、申し送りができており、共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎり入居者様のニーズに合うようにまた、他の施設ではできないことをし、他との差別化を進めています。必要なものがあれば、家族様に任せるのではなく、こちらでその日のうちに用意するようにしています。家で生活されていた時と同じような環境づくりに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は定期的に図書館より本を借りておられる方がおられるのみです。ボランティア様にもお越し頂けず、外部の方との関わりができていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三次や、世羅の病院に希望される方などの対応もしています。また、かかりつけ医による往診・家族様の希望されている病院への受診・希望される医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の往診は毎週、24時間指示が得られる。他科や歯科受診は全て事業所が通院支援している。結果についてはその都度家族に報告し共有している。看護師の職員が4人いる為、日々の健康管理が出来ていて安心である。希望のかかりつけ医の受診も柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日々の気付きの報告、入居者様本人からの相談など気軽に聞くことができる環境にあると思います。現在4名の看護職員が介護職員と協力して頑張ってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北市民病院の地域医療連携室と連絡を取り、入退院の情報共有に努めている。また、コロナ前には入院時、ほぼ毎日お見舞いに行き、病棟看護師から情報を頂けるように努めていた。現在は松花園の往診時にドクターから情報を常に聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合のご家族様の意思確認用紙に記入をして頂いています。(現在は実施できていませんが)年に1度、家族様とドクター参加のカンファで重度化した場合の対応を確認していました。現在は、終末期が近づいた場合のみ家族様に来園して頂き、今後のリスクなど、ドクターから説明をして頂いています。	利用開始時、指針を基に説明し理解は得られている。重度化した場合には主治医から説明してもらい、家族の意向を確認し、希望に沿い、三者で密に話し合い、方針を共有し、主治医の指示の下、家族、看護師、職員等チームで支援に取り組まれている。主治医との連携が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、ドクターからの指示で救急車は呼ばず、社用車対応をするようにいわれています。緊急時の連絡方法も話しています。日中はほぼ毎日看護師が勤務しているので対応、又はドクターに連絡し指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の協力は頂いています。災害時には、町内会長、消防団の協力も頂くようになっております。スタッフ間の連絡網で、スタッフも集まれるようになっている。火災時のルールもできている。	年2回自主訓練(通報、消火、避難誘導)を実施し、実践力を身に付け慌てず、速やかに対応できる様取り組まれている。居室避難後は名札を落とすと言う事を周知している。災害対策計画、地震防災マニュアルも作成している。備蓄もある。地域の協力体制も築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてスタッフも心掛けて対応をしています。入居者様の居室入退室の声掛けや、ノックの徹底にも気を付けております。また、否定をしない関わり、できる限りの希望を聞いてあげられるようにしています。	居室訪問時、排泄、入浴など、プライバシーに配慮すると共に馴れ合いになっても節度ある対応を心掛けている。また、職員間でも気付いた時には注意し合い、日々年上の人という事を意識し、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をするよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、コミュニケーションをとり、人間関係を作り、思いや希望を言いやすい環境になるよう関わっています。また、こちらから今必要なことはないかをお伺いし、希望もできる限り早い対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のADLが低下しないように心がけ、寝てばかりにならないようにリビングや外気浴にお誘いしていますが、無理強いはいしません。起床や就寝時間、食事時間などもその日のペースや状態に合わせて柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため、馴染みの美容院、床屋への対応はできていません。できるかぎり必要なものは、家族様に迷惑をかけないように、施設での対応を心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のお誕生月には、入居者様の希望のメニューで楽しんで頂いたり、甘酒、果物等、また、握りずしなども注文して、喜んで頂いています。食器洗いができる方は今は一人です。お絞りたたみをして頂いています。肉が苦手な方には魚や卵料理を提供しています。	トロミ、キザミ等、身体状況に合わせた形態である。力量により声かけで、テーブル拭きや食器洗い等してもらい、労いの言葉もかけている。食材も多く栄養バランスにも配慮し楽しみとなる様取り組まれている。食材も好き嫌いを把握し対応している。誕生日にはその人の希望のメニューを提供され、お祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナリコマ食のため、栄養のバランスはいいです。ご飯や、おかず量もその人に合わせて提供しています。水分量も記録を見ながら不足しないように気を付けています。水分の摂りにくい方には、好きなものを用意して、不足しないようにしています。トロミが必要な方には水分にトロミを使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	リビングの洗面台で、一人ひとり職員が付き添い対応しています。自分でできる方には職員がその方に必要なところまでの介助をしています。歯間ブラシの必要な方には用意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間など、PTイレを使われている方もいますが、入居者様それぞれの対応をしています。声掛けをしたり、コールで呼ばれた場合には、その都度トイレへの誘導をしています。	日中はできるだけ、個々の時間帯でトイレ誘導し、2人介助の方もトイレでの排泄に努め、機能維持、生活習慣を活かす支援を心掛けている。自立の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターや、看護師の指示のもと、排泄パターンを理解して、下剤の調整をしています。中には、ドライブに出かけると排便に繋がる方もおられます。水分量と運動量の確認をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴して頂いていますが、希望者がおあれば、3回入浴されるときもあります。曜日を覚えておられる入居者様には、その方の生活リズムになっている。体調不良や、入浴拒否がある場合には、別の日に対応しています。疎通困難な方はタイミングに合わせてスタッフの休憩時間	週2～3回、時間帯はその時の状況により柔軟に対応している。希望があれば回数には拘らず、思いに沿う様支援している。拒否の場合は無理強いせず、タイミングや声かけの工夫をしながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムを崩さないように就寝時間も対応しています。真っ暗で眠りたい方やつけっぱなしの方などそれぞれ合わせています。午睡の習慣がない方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが入居者様の今飲んでる薬の目的や、副作用のこと等、頭に入っていないと思いますが、何かいつもと違うときにはすぐに気づいてくれており、病院の受診に繋がったり、往診時にドクターに報告、相談をしています。施設の看護師が、薬の管理をしてくれています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや、様々な行事、ドライブや、商店街への散歩、ノンアルコールビールや、甘酒等、入居者様の好きなものを用意したりして、楽しんでもらっています。実習生に勉強を教えてくれる入居者様もいます。(元教師)広報誌へも目を通してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は広島原爆ドームや、出雲大社など里帰り旅行にも出掛けていましたが現在はコロナの影響で実施できていません。(家族とも面会程度の為)自宅訪問も家族と連絡を取り、不在時に様子を見に帰ったり、季節のドライブも外部と接触がない時や場所を選んで出かけています。	以前の様な外出はできないが、人込みの無い日や時間帯を選び、かがし祭りやお雛祭り、紅葉狩り等に感染予防を徹底し、出かけられ、季節や気晴らし、楽しみごと、五感刺激の支援に努められている。又室内行事も月1回は企画し、笑顔で過ごしてもらえるよう取り組まれている。散歩にも日々出かけ、外気に触れてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の意向もありますが、自分で管理されている方もおられます。以前は欲しいものを自分で見て選んで支払いをして頂いていましたが、現在は代理で買い物をしています。金銭の所持が困難になられた方はご家族様にお返ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる人も何名もおられ、友達や、家族とやり取りをされておられる方もいます。家族様と週1回の約束で毎週電話されている方もおられます。コロナにより家族様にテレビ電話ができる旨を伝えています。年賀状や手紙を出す支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、廊下、リビング等、比較的広く、移動もしやすくなっている。木のぬくもりがあり、天井も高く、圧迫感の無い造りになっている。園庭に花を摘みに出てリビングに飾ったり、季節の貼り絵や飾りで季節を感じて貰えるよう工夫をしている。園庭で花木や山の色の変化を見ながらティータイムを過ごして頂く事もある。	玄関前の広いお庭には季節のお花が咲いている。ゆっくり見学出来るように椅子も置かれている。玄関や廊下も広く和風建築なので木のぬくもりと天井も高く圧迫感もなく、廊下一面には作成された、ぬり絵や行事の写真等が沢山飾られている。懐かしい暖炉もある。テーブルにはアクリル版が置かれ感染予防の配慮もしている。死角もなく穏やかに過ごせる共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあるリビングでは食事テーブル(アクリル板使用中)も気の合う方と座って頂いています。アクリル板を外してゲームをしたり、カラオケを楽しんだりしています。屋根付きの広い玄関前では、春から秋にかけて、皆で歌を歌ったり、お茶を飲んだりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の荷物には使い慣れた馴染みある物を準備して頂くように声を掛けています。自分から、こうしてくださいと言われる方にはお手伝いし、居心地の良い空間作りに努めています。必要なものがあるときには、家族様に許可を取り、スタッフが揃えたり、家族様に持ってきてもらったりして	テレビ、ダンス、思い出の写真等が持ち込まれている。また、作成されたぬり絵も飾られ、自宅とのギャップが無いような環境づくりをされ違和感なく落ちついて過ごせるよう工夫している。時計やカレンダーもあり時の認識に繋がられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすで生活をされている人も、自力で居室まで帰られている人もいます。廊下のスペースが広く、入居者様同士のすれ違いも危険がなくできています。スタッフが建物内の危険箇所を報告し、修繕もできています(難しい箇所は業者へ)。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2／3くらいの				②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2／3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2／3くらいが				②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2／3くらいが				②利用者の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが				②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム松花園

目標達成計画

作成日: 令和 4 年 5 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	コロナ禍の為、以前の様に、入居者様の希望ど うりに対応してあげる事ができていない。	面会禁止が続いている中だが、できるだけ 面会の場を用意する。	家族様と連絡を取り、1ヶ月に1回、面会希望日を決め る。	4月～
2	35	外部との繋がり(ボランティア)が無くなった。	人との交流が無くなっているが、外へ出かけ る機会を増やしていく。	事務所と現場で協力して、できるだけ多くの町 や公園などに出かける。	4月～
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。